



あゆか
赤熊 歩佳ちゃん
6月4日生 庄西

未就学児のお子さんを募集しています

- ①お子さんの写真
- ②お子さんの氏名
- ③名前の読み方
- ④誕生日 ⑤年齢
- ⑥行政区 ⑦メッセージ (50文字以内)
- ⑧保護者の連絡先を送信してください。

7月生まれの締め切りは、**6月13日(金)**です。



送信先

koho@town.soeda.fukuoka.jp
関 役場総務課広報・秘書係 (☎ 82-4000)



地域子育て支援センター
6月の予定

- ★サークル「めだかっこ」(毎週火曜日)
▷10日/虹の会読み聞かせ(給食) ▷17日/親子リトミック(給食) ▷24日/虫よけスプレー作り(給食)
- ★サークル「おんぶに抱っこ」(毎週金曜日)
▷6日/虹の会読み聞かせ ▷13日/ペタンアート ▷20日/親子健康教室・おっぱい相談 ▷27日/4・5・6月生まれの誕生日会
- ★ベビーサークル「あっぷっぷ」
▷11日 ▷25日/虹の会読み聞かせ
- ★マタニティサークル「ポコ・ア・ポコ」
▷12日
- ★虹の会 布おもちゃ制作 (6月と7月に全5回予定)
※日程など、詳しくは「おんぶに抱っこ通信」で確認ください。

関 添田町地域子育て支援センター (☎ 85-0888)

まちのホットNews

九州北部豪雨による被災と復興
第68回全国学芸サイエンスコンクール



↑「将来は医者になり大切な命を救いたい」と話す住吉さん(左)と寺西町長(右)

久留米大学附設高等学校1年の住吉千織さん(福岡市)が昨年度同中学校3年時に添田町を題材にした「平成29年7月九州北部豪雨による被災と復興～GISを用いた考察・BRTひこぼしライン開業による学び～」を卒業論文で作成し、同中学校卒業生160人中銀賞を獲得、また同論文は旺文社主催第68回全国学芸サイエンスコンクール社会科自由研究部門で入選を果たし、4月30日、寺西町長に報告に訪れました。祖父母が落合地区に在住し、小さなころから添田町が大好きで帰省するたび、道の駅や町立図書館などを訪れている住吉さん。家族で英彦山を訪れたときに、災害の爪痕を目撃し、災害に対して住民がどのような対応を行ったのか気になり、卒業論文のテーマに決めます。添田町・東峰村・朝倉市などの発災時の気象状況の分析、被災者や役場職員へのインタビュー、町が指定する4つの指定緊急避難場所への避難ルートの作成に加え、被災したJR日田彦山線のBRTひこぼしライン開業による地域振興についても記載された論文は159ページにもなります。住吉さんは「卒論を書き上げるのに構想から1年かかりましたが、いろいろな方の支えで楽しく作成できました。全国学芸コンクールで添田町のことを全国の方に知っていただき、とてもうれしく思います。町の皆さんもぜひ読んでみてください」と笑顔で話してくれました。住吉さんの卒業論文は、町立図書館で読むことができます。

住吉さんの卒業論文は図書館館内で自由に閲覧できます↑

鍋島家の信仰と
英彦山神宮上宮の再建記録

町内には指定・未指定にかかわらず多くの文化財が残されています。これら文化財がどのようにして大切に守り継がれてきたか、その過程を明らかにすることは困難です。今回は、記録が残る英彦山神宮上宮社殿の再建などの歴史に触れます。

英

彦山神宮の上宮社殿は、江戸時代の再建や修繕などの記録が詳細に残されています。上宮社殿は江戸時代に何度も焼失しており、その度に再建や修繕が行われてきました。その作業を中心的に担っていたのが、肥前国佐賀藩の鍋島家です。

今

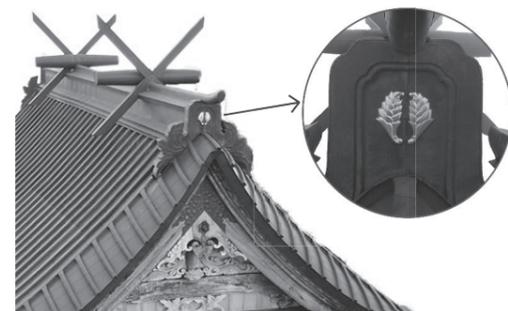
に残る上宮の宝殿と拜殿も天保13(1842)年と弘化2(1845)年に佐賀藩主の鍋島齊正によって再建されました。鍋島家の歴代当主は英彦山を篤く信仰しており、その理由の一つに、初代藩主の直茂の祖父にあたる清久の逸話が挙げられます。清久は英彦山へ参詣する途中、誤って崖から落ちて気を失いましたが目を覚ますと無傷でした。そして気が付くと

天

保13年の上宮宝殿の再建記録では、佐賀藩との工事にわかるやり取りが記されており、大変興味深いものです。この記録は工事内容のほかに、工事を取り仕切る佐賀藩の役人が交代した時には、英彦山の最高職位である座主の教育が食事を接待したことや、雨天時には大工たちが作業を止め、大南神社へ参詣したことなど、色々なことが記されています。また、佐賀藩の役人は、英彦山には山

現

在、英彦山神宮では約150年ぶりに上宮社殿の本格的な保存整備工事に取り組んでおり、上宮への参拝はできません。上宮周辺には工事資材などが置かれ、大変危険な状況のため立入禁止となっておりますので皆さんご理解とご協力をよろしく願います。



↑上宮社殿の屋根などに残る鍋島家の家紋

文芸歳時記

【短歌 投稿】

わけもなく初めて来た道やすらぎに
しばし佇む山藤の下 独活山強実

種をまき苗の配置を思案して
菜園で遊ぶ細やかな至福 櫻木マサ子

緑映え浮かれる心抑えつつ
風の匂いに誘われ散歩 佐藤 直

争い罵声たへぬ世に静かな夜
雪は降っていたのか 柳瀬 一徳

芋の葉にコロコロ光る雨の玉
吾が心底もかくあらまほし 西村 宗雪

イトトンボ石段に来て羽根休む
遅れて来しは番なるかな 久保田克利

【俳句 投稿】

花は葉へ京都を偲ぶ修験者 伊勢村 稔
石楠花やがてしほむが命かな 寺本 芳寛
水張りし田にさざ波や夏立ちぬ 柳瀬 満子

【川柳 投稿】

英彦山の夏山シーズンさあ登ろう 原田祥二郎
オークホールイベントいっぱい夢いっぱい 原田 順子

●7月号に掲載する俳句・短歌・川柳を募集します
6月13日(金)までに役場総務課に投稿してください。
1人一句まで。俳句・短歌・川柳の区分を書いてください。

関 役場総務課広報・秘書係 (☎ 82-4000)